

## 国際交流部活動報告①「SDG s とモンゴル遊牧文化」

NPO 法人北方アジア文化交流センター「しゃがあ」理事長の西村幹也さんを講師に招き、上記のタイトルで講演していただきました。モンゴルの地理や近現代史等を現地に何度も行っておさめた写真等と一緒に紹介していただきました。また、遊牧文化を通してSDG sについても深い視点を持つこともできました。

講演の中で「遊牧民は花を摘んで家には飾らない。彼らは、あるものはそのままにする。自然にあるものは人間のものではないと考えます。」という言葉が心に響きました。



### 【参加生徒からの感想】

●今回の講習を通して、モンゴル人と日本人の感覚の違いについて知ることができました。モンゴルでの暮らしは、厳しい天候や自然の中でいつでも死ねる環境であるということがわかりました。その中で、自分で判断・決断をし、天候を察知したり、100m先のリスの頭を狙うことができるなど、生きていくためのスキルがあり、私達の暮らしとは全く違うものだと感じました。また、小さい頃から親の仕事に触れ、まきを割ったり馬に乗ったりするなど、私が小さい頃にやらないようなことを自分から当たり前のようにして毎日生活していくことができる子どもたちが本当に素晴らしいことだと感じました。今私が暮らす環境は、ネット社会であり便利なものがたくさんあります。このようなものもこれからの未来で大切になってくると思いますが、便利なものだけに頼って生活するのではなく、必要なものを必要なときにアクセスする力が必要であったり、今あるものをどう使うか、また、それがなかったらどのように生活していくのか知恵を持って、生きている環境の中で適応して選択して過ごすことが重要だと感じました。私は今後、全て物に頼るのではなく、自分でできることは自分で行っていくことを大切にして生活していきたいと思います。

●モンゴルや遊牧民については国語の教科書に載っていた「スーホの白い馬」の記憶程度しかなく、今回聞かせてもらったお話は知らなかったことばかりで、厳しいモンゴルの高原で生き抜くために様々な知恵を持つ遊牧民の人たちに本当に感心した。誰から教わるでもなく、親や兄弟のマネをして、失敗もしながら仕事を覚え成長するモンゴルの子どもたちは生活力が高く、そうやって立派な遊牧民になってゆく。日本とは文化も生活の仕方もまるっきり違うし、私がモンゴルに行ったら2日と持たず死ぬ。でもきっとモンゴルの人たちが日本にいきなり来ても苦勞する。私は自然界で生き抜く知恵はないけれど、これまで得た知識や経験もたくさんある。住んでいるところが違っても、誰でも色々なものを見て、聞いて、成長して、並々ならぬ努力と挑戦で生きる力をつけている。きっと私も、誰でもそうなのだろうと思った。そうして洗練されてゆく生活の営みを人は美しいと感じるのだろうと思う。

●モンゴル人の日常生活はイメージしづらいものがあつたが講義を通して過酷な生活環境のなか暮らしているということがわかった。とても説明がわかりやすかつたです。

●人間の生物として備わっているものを遊牧民はフル活用していて、日本人の私では耐えられないくらいの生活を普通に行っている遊牧民たちは凄いと感じた。今私に足りていない危機管理能力は日本が平和なため重要性を忘れていただけと感じた。

SDGz は環境と人間にしか配慮しない自分勝手な物だと改めて感じた。



子ども頃から馬に乗る遊牧民



トナカイと遊ぶ子ども

●自分も最低限の資源で生きようと思った。

買い物をする際に安いからと言って買いすぎないようにする。

ないものはないのだと割り切って別のものでも代用するという知恵などが大切だと学ぶことができた。

いつか余裕ができたなら自分の好きなことをしようと思う。

博物館に行ってみたいと思った。

今回のお話はわかりやすくとても勉強になりました。

ありがとうございます

●便利さを追い求めすぎて自然を破壊しないほうがいいと思いました。

自分も生きるために自分の身の回りのことを自分でやるということをやってみようと思いました。

●モンゴルのことを聞けてとても勉強になった。

聞いて面白くて、考えさせられるような内容だった。

子どもでもできることは自分でやる。僕もできるだけするようにしていますが、やはり難しいし、正直モンゴル人のような生活は僕にはできないと思います。

ですが、行ける機会があるのであれば行ってみたいなととても思いました。

僕は今、オーストラリアに行きたいと思っているので、その次にでもモンゴルに行きたいです。次はフランスにも行きたいです。すごくためになったし出てよかった、聞けてよかったと思いました。ありがとうございました。